

公益社団法人宇都宮青年会議所  
2014年度 第6回 常任理事会

日 時：2014年 6月 11日（水）19：00～21：55

場 所：コンセーレ J Cルーム

出席者：

- （ 理 事 長 ）：村上(敬称省略 以下同)
- （ 直 前 理 事 長 ）：福田(治)
- （ 顧 問 ）：山本
- （ 副 理 事 長 ）：朝田、福田(之)、小瀧、須山
- （ 専 務 理 事 ）：中島(崇)
- （ 監 事 ）：黒川、澤畑
- （ 担 当 常 任 理 事 ）：林、金
- （ 全国大会招致会議議長 ）：羽石
- （ 会員拡大会議議長 ）：太城
- （ 協働連携特別会議議長 ）：篠崎(達)
- （ 法令会計審査会議議長 ）：廣田
- （ 事 務 局 長 ）：橋本

・オブザーブとして、共同連携特別会議より安野副議長が出席。

- 1. 開会宣言 <中島(崇)> (役職名省略 以下同)
- 2. J C I クリード唱和 <廣田>
- 3. J C I ミッション並びに J C I ビジョン唱和 <金>
- 4. J C 宣言文朗読並びに綱領唱和 <篠崎(達)>
- 5. 関東地区宣言唱和 <橋本>
- 6. 出席者の確認 <橋本>  
出席理事 13 / 14 名

7. 議事録作人の指名 議事録 <総務委員会>
8. 前回議事録の確認 <中島(崇)>
9. 議題並びに資料の確認 <橋本>
10. 理事長挨拶 <村上>

まずは第6回の常任理事会に定刻どおりお集まりいただきましてありがとうございます。あいにく今日は雨が降っておりますので、お仕事、そして交通事情等も悪いというところでもあります。梅雨入りをしたということで雨が降っていたり晴れていたり、暑かったり寒かったりという日々が毎日変わっていくわけでもありますけれども、本当に体調には是非お気をつけてお過ごしいただきたいという風に思う所存であります。

そしてまずは宮まつりの出向者会議が始まりました。第1回の出向者会議から多くのメンバーにご参加をいただきました。出向者会議の場でも少し触れさせていただきましたけれど、出向者会議というのはJ Cだけではもちろんありません。開催委員会の実行本部に我々は出向をして、市民の人、そして関係諸団体の人と共に作りあげていく宮まつりでありますから、J C色を出しちやいけないということではないのですけれども、しっかりと立ち位置だけは是非注意をしていただきたいという風に思います。J Cがもちろん中心になっていることは間違いないのですけれども、それが当たり前という空気感を出すと、やはりうまく行くものもうまく行かなかったりすることもあるかと思っておりますので、その辺だけまずは注意をしていただきたいなという風に思います。宮まつりに関しては、宮まつり委員会を中心に本当に素晴らしい宮まつりを今年も創りあげていきたいという風に思っておりますので、ここにいる常任理事会構成メンバーの皆さんを中心に、是非素晴らしい宮まつりを創りあげて参りましょう。

そして6月のASPAC例会、多くのメンバーにご参加いただきました。ありがとうございます。事前のガイダンスから、そして現地山形まで足を運んでいただいたメンバーを合わせると72パーセントという出席率のメールが今日配信になっておりましたけれども、非常に私もありがたく思いました。私も様々な出向を経験し、それからASPACには毎年ここ数年出ておりますので、色々知っているつもりではあったわけではありますが、改めてアジアの仲間との交流、そして総会等でもそれぞれのJ C Iの副会頭の報告等がありましたので、それぞれの国が今どういう活動をしているのかということを目にするのができ、改めてそれぞれの地域で同じ志をもって活動をしている仲間がいるのだなと認識をさせていただきました。また私も、J C Iに出向した経験者ということでフォーラム等の設営の方を担当させていただいたりもしたわけではありますが、色々な人と色々な機会をいただいたことにより、今回の大会で私自身も学ばせていただいたことが多くあ

りました。色々なことに能動的に参加することにより、新たな学びや気づきというのがやはりあるのだなということを再度認識したわけであります。JAPAN NIGHTでも宇都宮のメンバーが一生懸命餃子を焼いて配っていたり、JC運動発信委員会を中心にかなり多くの海外の方との交流も図れましたので、非常に有意義な大会になったのではないかなという風に思います。ただ一つ残念というわけではないのですが、もう少し意識を是非上げていただきたいなということをお話しさせていただきたいと思います。今年、羽石議長を中心に全国大会招致会議というのを設置させていただいて、全国大会をめざしているわけであります。山形JCが今回主幹をされていて、非常に開会式から素晴らしい設えであったりしたわけです。将来諸大会を運営する立場であれば、もう少しいろいろなところを注意深くみて行ってもよかったのかなと、勿体ない気がしました。国際会議ではありますけれども、日本の全国大会よりもっと規模が大きいわけであり、学びがないってことは絶対はないので、今度サマーコンファレンスもありますので、是非、羽石議長、小瀧副理事長のラインの皆様は、そうゆうところも是非みておいて欲しいなと思いますし、これは担当ラインだけの問題ではなくLOM全体で意識を高めていかなければならないところでもありますから、意識を是非共有していただきたいなという風に思いました。

今日の一つ、先日斜め読みではありますがありますけれども、詩集を少し読んだので、そのお話をさせていただきたいと思います。長田弘さんという詩人の『人生の特別な一瞬』という本なのですが、人生には特別な一瞬があり、ただこれというのは、たとえば自分たちの持っている記憶の一番最初の記憶であったり、小さい時にお母さんに抱きしめられたときの記憶であったり、重要な物事を決定した瞬間のことであったり、何気ない日常に特別な一瞬というのは本当に色々と転がっており、人それぞれ持っているところという話です。その特別な一瞬が多い場所というのが故郷であるということなのです。我々にとってみればこの宇都宮なわけです。我々は、人づくり、まちづくりという風にいわれておりますけれども、対象者はやはり自分たち自身であったり、宇都宮市民であったりするわけです。我々のつくっていく事業というのは、宇都宮の人々の人生にとって特別な一瞬になる機会、その可能性が非常に多く存在をしているわけであります。その人の一生を左右する可能性もあるのです。もちろんよい方向に導くという意味でありますけれども、是非このことを私自身も含めてですが、忘れないでいただきたいなと思いました。また、JC、自分たちに置き換えてみれば、このJCで今、役職をそれぞれやっていますが、今年の立場というのは2回はやらないのです。副理事長を2回やったりしますけれども、同じ担当のところはやらないわけであります。これも人生の特別な一瞬がその役職によって毎日あるわけです。是非その大切な一日一日、一瞬一瞬を集中して過ごしていただきたいと思いますし、楽しんで過ごしていただきたいと思います。そんなことを市民と、自分にも常に向き合いながら、本日の会議も有意義なものにしていきたいという風に思っております。

本当に皆さん、この梅雨の雨の中、しっかりと常任理事会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。本日、山本顧問と黒川監事と遅参した理由なのですが、2015年度の関東地区協議会の会長候補者のヒアリングに稲毛直前会長がいらっしやっております、理事長は常任理事会がありますので、代わりに私が、昨年沢山のご恩をいただきましたのでご挨拶に伺ってきた次第でございます。昨年の今頃は本当に大変な思いをしている中、本当に皆様方にどれだけ支えてもらったかを、この時期になって思い出していたのですけれども、昨年はこの立候補者が、私どもの山本顧問の他に二人おりましたので、ヒアリングの回数も全然今年の方が多いのですが、今年は多分ここから選管を入れても4回位だと思えるのですけれども、昨年はその前に3回やりました。わんぱく相撲の途中で抜けて本当に理事長として皆様に申しわけないなというところもあったのですが、その部分がない分回数が少ないのですけれど、その分宇都宮で開催される機会が少なく、多分あと一回位しかないのです、是非その時は理事長、そして中島専務の方から皆様にもおそらく動員がかかると思いますので、その際はこの我々が今年本当にお世話になっている関東地区執行役員会を引き継いでいただく方たちへのホスピタリティという意味、友情という意味で皆さんで行っていただきたいと思います。本当に昨年は水戸にここにいる皆様の殆ど、50人位で行っていただいたり、その前に30人で行っていただいたりとか、普通に考えたらそんなことできないですよ。僕が昨年、皆様が全ての事業をとおして大いなる成長をしていただくことと、関東地区大会が盛大に宇都宮のプライドを誇示しながら成功ができることとして、国際グループ常任理事がいる中、来年の関東地区担当常任理事として山本和紀君をどうしても輩出したい、この3つの大きな願いとして、皆様には何度も何度もお話をさせていただいたと思うのですけれども、そのために本当に皆様にはお世話になりましたし、どれだけ背中を押していただいたかということは今でも鮮明に覚えています。そのヒアリング前にはもちろん私はいっておりませんが、一年経ってそういう話をさせていただいて、やはりこのLOM、宇都宮JCのLOMのこの団結力、そして強さというものを思い出しながら再確認をしていたところでもあります。

皆様に何をお伝えしたいかという、今日本当にスムーズに常任理事会が進んでいると思います。多分理事長からお叱りを受けている議案中にはあるのでしょうか、このところの流れだと、まだまだこの時間だと終わらないのかなという風に思いながらも急いできたのですけれども、最近理事会がこのところ長くなってきていますよね、僕や理事長の話が長いとか、そういったことではなくて、やはりそこにいる皆さんの責任だと思います。常任理事会がスムーズにいつているのであれば、次の理事会も同じくスムーズでないといけません。ここでこんなペースで来ているのに、理事会になったらこの時間でまだ2、3本しか終わっていないというのであれば、これは間違いなく常任理事会構成メンバーの皆さんの責任であります。是非ともそのことを重々承知していただいて、スムーズ

な進行にご協力をしていただければという風に思います。ここでいえなかったことがあるのであれば、それは担当の人に絶対これはいいやとならずに絶対必ず伝えること。今後宇都宮を背負っていくのは他でもない皆様方です。今年度の常任理事会、そしてこの6月の常任理事会というのは今日しかない。是非ともその思いを噛みしめながら進めていただければという風に思います。あまり話すと雨がひどくなってくると思いますので、この辺でやめさせていただきたいと思いますが、我々一人ひとりが宇都宮そのものである。本日も最後までどうぞ宜しくお願い致します。

顧問並びに公益社団法人日本青年会議所関東地区協議会第60代会長挨拶 <山本>

本当に多くの設営部隊、総務委員会の皆様にも来ていただいております。本当にお疲れ様でございます。今、直前からありましたけど、去年の今ぐらいに僕が関東地区担当常任理事に輩出させていただくためにLOMの皆様を支えていただきました。一昨年、国際常任で村上理事長も輩出されていましてし、支えてもらう人がいるからなのか、支えてくれる人がいるからなのかというのは、意外とどっちが先というのはなくどちらも必要なのです。支えてくれる人が最初にはいないと行ってみようかなとか、やらせてもらいたいという気にもならないし、でもやってみたい、宇都宮の看板を全国に広めたいという人が何人かいなかったら、じゃあ支えてみようかなという人もできない。これは両輪というか、どちらも原動力なんじゃないのかなと。今日次年度のヒアリングをしていて、会長に立候補する方、そのLOMの理事長、ブロックの会長をみて本当にそう思いました。それを宇都宮JCの皆にしてもらい、僕は支えて、担いでもらっているのだなと、これは出向している僕だけでなく、常任の皆様も一緒ですからね。皆様のラインの議長、委員長の皆様もそうです。委員会メンバーに支えられているわけです。常任の皆様も委員長、議長に支えてもらっているわけでございますから、それを常に胸においてもらいたいと思います。

そして話は変わりますが常任理事会でございます。常任理事の皆様はわかっていると思いますが、貴方たちは正副の皆様を試されているのです。正副で揉んできたのを常任はどのようにみて、議長、委員長に落として行くか、宇都宮に必要とされている事業、例会をどのようなかたちで認識し、議案に落として行くかを常任の皆様は試されているのです。これをしっかりと受けとめていただき、言葉悪いですけどもやもすればやえもすれば、それは常任の皆様、貴方がたをバカにしているような、試しているようなところもありますし、逆に信頼してこれを任せているところもあります。これを常任の皆様はよく議案書を見て見極めていただきまして、正副理事長会議で出てきている議案というものを、議長、委員長に何を落とさなきゃいけないかというのを、ここでしっかりと揉んでいただきたいと思います。それが理事会に繋がるわけでございます。理事会の長さは、長けりゃ悪いというわけではないし、短けりゃいいというものでもない。長くても仕方がないときもある

と思うのですよ、それはやはり質だと思いますから、それを常任の皆様、貴方がたは試されている。それを認識していただきまして、今日の常任理事会が有意義になりますことをご祈念いたします。

## 1 2. 役員報告

<橋本> 二点ございます。まず先日のASPAC例会、皆様のご協力をおもちゃして無事に終わることができありがとうございました。私が理事会を欠席し、ご迷惑をかけたこと深く反省をしております。もう一点は選挙管理委員会からのお知らせです。次年度理事推薦の投票の日程が確定しました。通常投票が6月30日月曜日、第2回宮まつり出向者会議の日となっております。午後5時から午後8時まで、コンセーレ3階第4会議室で行います。不在者投票については6月26日木曜日、6月27日金曜日の正午から午後2時まで、こちら事務局の方で行いたいと思います。尚、こちらの案内文章を昨日投函しまして、ご自宅に届く予定となっておりますので再度ご確認ください。

<廣田> 7月28日に県の立ち入り検査が9時半より入るという通知が正式に来ております。1か月前までに提出をする書類の準備を現在しております。24年度、25年度案件をみるということなので、その当時よくご存じの方々いらっしゃるかと思いますので、我々もわからないところは積極的に質問、ヒアリングをさせていただきます。27日には無事終わるよう今準備をしているところでございます。皆様方にもおかれましてはご協力のほど宜しくお願いします。

<羽石> 明日の7時半よりコンセーレのバンケットホールにて、今月28日に行われます6月事業ラ・バンパの説明会をさせていただきます。事前に出欠の確認等させていただいておりますが、再度、時間等間違いのないよう各常任理事の皆様におかれましては委員長の皆様にお伝えいただきますようお願いいたします。

<中島(崇)> スケジュールですが、渉外委員会より流れていますが、来週月曜日2時よりコンセーレにて防災ネットワーク構築セミナー、栃木ブロックの事業で加藤さんが副委員長として出向している委員会になります。2時ということでもかなり時間的に厳しい面はあるかと思いますが、宇都宮の出席がないとブロックの事業としてもかなり運営が苦しいというお話をいただいておりますので、

2時間という時間を作れる方がいましたら、参加の方宜しく申し上げます。続いて6月17日1時より茨城県古賀の地にて日本J Cの関東地区エネルギーカンファレンスがございます。こちら前日同様かなりスケジュール的に難しいかと思いますが、是非とも動員をかけたいたるところでございます。それから6月18日水曜日に正副メンバー対象になりますが、18時より丸治にて宇都宮J Cのシニアの幹事会が行われます。こちらに関しては正副メンバーでご挨拶に伺わせていただきます。それから6月28日LOM事業の全国大会の事業の日に、19時半より水戸J Cの全国大会10周年記念式典というものがございます。こちらに関しては昨年以来といえますか、昔から続いている水戸J Cとの協力ということで、宇都宮J Cからもシニアがこの式典に参加されるというところで、LOMとしても理事長と私、それから渉外委員会で参加させていただくかたちになります。小瀧副理事長には大変申しわけないのですが、懇親会に関しては、理事長と私の方はそちらに出かけますので、対応を宜しく申し上げます。それと7月1日火曜日午後から埼玉中央J Cの全国大会対話集会があります。これに関して埼玉中央の竹ノ谷専務と私の方でお話をしており、宇都宮J Cとして関東地方をバックアップしていくという意味でオブザーブするわけなのですが、何人宇都宮J Cとして入らせてもらえるのかの確認をしているので、この件に関してはもう一度案内を流します。基本的に理事会構成メンバー中心にオブザーブをしていただくと考えております。最後に総務委員会から案内が流れている総会資料に載せる出向者中間報告、議長、委員長皆様の中間報告になりますが、締切が6月16日月曜日となっておりますので宜しく申し上げます。

### 13. 協議事項

協-01 4月例会 法令会計事業 開催報告並びに決算（案）について

協議資料に基づき、廣田議長より上程文の読み上げ。

<中島(崇)>フォーマットのなところですが、誤字脱字が何箇所か見受けられるので、もう一度全体的には見直しを行ってください。

<橋本> 電話掛けの件ですが、2回掛けた時のかけるタイミングというのはいつ頃だったか教えてください。今後の委員会に我々も生かしたいと思いますので。

<廣田> まず審議後すぐに全員に電話かけを行っております。その後、繋がらなかった人、もしくはあやふやなグレーな方に対し約1週間前に電話かけを行っております。

<林> 委員長、議長のクイズの件ですが、興味を持たせるにはすごくいい設えだったと思うのですが、皆さん回答率がすごくよく、最後まで同じような回答率で残っている状況だったと思うのですが、その辺りのクイズの難易度となる設定に関してはどのようにお考えでしょうか。

<廣田> クイズを行った目的ですが、例会のイメージを少し変えて動員をするという目的が一つあります。もう一つがQ&A方式で答えることにより理解を促進できるのではないかとこのころがありました。その中で今回のクイズの内容は易し過ぎたと思っております。優越をつけるのが目的ではないのでそれでもいいのかもしれませんが、面白みに欠けてしまったというのは正直あります。メンバーの知識を把握できていなかった我々委員会の責任だと思っておりますので、是非クイズ形式等々やる場合においては、今後メンバーの知識がどれくらいあるかを事前に把握した方がいいと思います。

<小瀧> 意見と対応に書かれていないことが結構あるので一度精査してください。アンケートの内容自体がこれでよかったかをもう一度考えてもいいと思います。意見です。

<橋本> 今回、事前にメーリングで事業の案内がありました。個人的にあれがあったお陰で興味が持てたし、出席が増えたのではないかとこのころ感じました。そこに関してあれがあったお陰で行きましたという意見は吸い上げられていますか、我々も今後考えていきたいと思っている手法なので何か意見をいただいているようであれば教えてください。

<廣田> メンバーメーリングをみたから来たというところまでの検証はえられておりません。ただそのメンバーメーリングがメンバーに対してどのような効果をもったかに関しては、アンケートのメンバーメーリングを使用しているクイズ形式の例会案内という部分で、興味を持っていただけたという結果は出ておりますので、是非もっと有効な内容にして活用していただければと思います。

<村上> 思いつきで今の動員のお話ですが、メンバーのLINEを作ってもいいかもしれません。既読と出るのので何人読んだかわかるのですぐ検証もできると思



うので。それと議案の部分で少し気になるのが、アンケートの回収に参加推進の検証の部分で少し書いてあるのですが、『確実にアンケートを受け取れる設えを考え実施する必要があったかと思います』という書き方をしておりますが、それは一体何なのかという具体的なものを書いてもらえると議案としてよりよくなってくると思います。後で来年以降のメンバーがみたときにすぐ参考になると思うので、終わったばかりの例会で感じた部分をより具体的に書いて欲しいなと思います。最後に所見ですが、正副でも意見をしているのですが、今後の展望というところがやはりまだ薄いので、肉付けをしてください。

#### 協-02 4月 姉妹JC交流事業 開催報告並びに決算（案）について

協議資料に基づき、金常任より上程文の読み上げ。

<中島(崇)> 来日時の対応マニュアルの記載になりますが、これは将来的な話なのか、今年の話なのか、それとも今からずっと続く話なのかというところを一度検討してください。要は今のままだと渉外がやりますよということになると思います。逆にいうとハワイで交流を行ってきた地域交流のメンバーが一番顔が割れていて一番接ししやすいと思うので、もちろん送迎とかはいくらでもできると思うのですが、慣れ親しんだ方が常にそこにいてくれるというマニュアルの方がより対応策としてはよろしいのではないかと思います。

<廣田> 意見と対応には書かないでいただきたいのですが、風営上の問題のところは合同正副会議を飲食店で飲食をしながらと記載されています。グレーになってしまうので、ここを白くしてください。

<金> わかりました。

<林> アンケートですが、一応記述式で沢山の意見をいただいているようなのですが、それに対する対応の纏め、そういったところが少し足りないと思います。いただいた意見を受け、委員会としてどう考えているかをもう少し記載してください。

<金> 次回理事会までにきちんとまとめて報告させていただきます。

- <羽石> 議案のところではないのですが、ホノルルチャイニーズの方の平日の集まりが少なかつたと思うのですが、実際に何名が参加したかの記載は入れる必要はないと考えているのでしょうか。であればこの記載は必要ないと思います。もし書くのであれば現に書いた方がいいと思います。意見です。
- <金> 参加人数等に関しては意見を参考に記載の部分の検討をします。
- <村上> 文章が多いからか読みづらいので精査してください。非常にいい事業だったと思います。LOMの組織として重要だったのが合同正副です。今後の話もあったのですが、議事録が非常に簡単すぎて話した内容が書かれていないのが多々あるので整理を残し、来年に繋げられるようお願いします。

#### 協-03 7月例会 会員スキルアップ例会開催計画並びに予算（案）について

協議資料に基づき、篠崎議長より上程文の読み上げ。

- <中島(崇)>案内文の件ですが、各地会員会議所に発送となっていますが、こちらは栃木ブロック役員にも送るというかたちでしょうか。
- <篠崎> 役員というよりも各地JCで考えております。いずれにせよ役員の方も県内の10LOMに所属をされていますので、そちらの方で案内を流したいと思っております。
- <中島(崇)>県内のLOM全部に送るのであれば、今年のLOMの案内をみても基本的にはブロック役員の方がいいかと思うので作成願います。それと案内文の中身の話ですが、最後の結びの文、『さて』から始まる文章ですが、日本語の意味の繋がりが接続詞としておかしいので一度精査してください。伝えたい内容、方向性は間違っていないと思います。
- <金> プログラムガイドには添付されていますが、たとえば各理事会構成メンバーにどのようなスキルアップ研修なのかと聞かれたときにちゃんと答えられるのかなど、プログラムガイドだけだとイメージが付きづらく感じるのも、何かしら工夫をしてあげるときちっと説明もでき、それによってビジターが増え、参加したいと思う人が増えるのではないかと感じました。

<羽石> アンケートの回収についてですが、先程の7月の報告でもあったアンケートの回収率について色々書いてあるのですが、アンケート以外にたとえばその例会が終わった後に、改めて委員会にてヒアリングを行うことは考えていますか。

<篠崎> 現時点では考えておりません。

<林> アンケートですが、日本J C報告のため、ヘッドトレーナーの質問が結構スペースをとってしまっているなという印象がありました。もう少し事業内容についての質問を充実させてください。

<村上> ジャパンプライドの事業内容のところにプログラム内容がありますが、このプログラムは日本人の誇り、地域の誇りを感じられますというところからいくと、このプログラムの作られている背景というのは、若者の無気力、大人の無責任、高い自殺率など、様々な社会問題の根底が背景なのです。このプログラムの目的というのは、人々が信頼しあい安心して生活できる社会をもう一度取り戻すためにと書いてあるのです。僕は所信でそうゆうことは書いてないので正直引っ掛かっています。これは協議会、正副でも常任理事でも、この間の正副でもいっていますが、このプログラムをやりたいありきの議案にしか僕にはみえません。このプログラムはいいプログラムだと思うし、概要は知っていますが、ただ宇都宮J Cの今年の運動の中で、例会としてやるプログラムかどうかというのがある。議案の書き方かもしれないけど、正直そうゆう印象は受けています。因みにこの目的を達成するために、会議体で他に何か考えましたか。

<篠崎> プログラムセミナーの中ではないです。たとえば講演する人を選択するにしても、私自身が目的にあたる講演者だと思う人もいませんでしたので、ただ落ちてないものを皆様に進めるということがどうしてもできなかったのも、このプログラムを受け、実際に感じたところで進めさせていただきました。

<村上> 他の年でいけば内容的には研修系の委員会の流れをくんでいるのです。いろんな話を聞いて、実際にその候補となる講師の講演を聞きに行く人たちもいれば、その実績とかでこれは絶対間違いなく進められるというやり方もあるし。この選定理由をみてもプログラムの中からはか考えてないというのがすごくわかります。すごく簡単に考えてないかと思うわけです。この例会を。出向者の多い会議体で大変なのもわかりますが、すごくやっつけ感が感じら

れるのです。議案を読んでもやはり所信の方向性とプログラムの方向性が違う。一生懸命考えてくれたのだらうけど、入口がはじめから違っているから、ずっと平行線になっているのかなとすごく思います。次の理事会で審議なのでどうしようという感じではありますが、副理事長とも相談してみてください。

#### 協-04 第110回通常総会 開催計画並びに予算（案）について

協議資料に基づき、橋本事務局長より上程文の読み上げ。

<羽石> 10番項事業内容の出席率向上。入会3年未満のメンバーを意識した内容をシンプルでわかりやすい文章を使うことにすることで総会の出席意識を拡張するとあります。確かにシンプルな内容になっていますが、これをみて3年未満の方がどう思うかというところの検証はどこまでされているのかなと感じます。個人的な意見ですが、定款第3条第17項第1項に基づき徹します。これは多分メンバーの方、3年未満の方に特に意味はないのかなと思います。他の例会等の案内文については記載があるのですが、総会の中で決めることについての内容の記載がありませんので、検討いただいてもいいと思いますし、もう一度わかりやすくなぜ総会に行かなければならないのか、なぜ委任状を出さなければいけないのかをもう一度委員会の中で揉んでいただけたらと思います。

<橋本> こちらメンバーに向けてのメーリングなのですが、案内が漏れておりました。参考資料一覧の方です。17番項メンバーメーリング（案）委任状、あと出席の方をもう一度、ご一読ください。

<村上> やはり羽石議長のいったように動員だと思われまますので、1月の総会の検証で、今回入会3年未満の話になっているのだと思うのですが、それ以外にもっと何かできないのかなと、もう少し考えて欲しいと思います。何とか効率的に、しっかりと人数が集められるような最大限の努力をお願いします。

#### 協-05 8月 宮まつり例会 開催計画並びに予算（案）について

協議資料に基づき、金常任より上程文の読み上げ。

<中島(崇)>今クールから宮まつりの議案がスタートしました。修正点、意見ですが、まず2番の事業の対象者、宇都宮JCメンバー、シニアとあるのですが、これは案内文からみるに特別会員というかたちで記載をお願いします。それから参加員数計画が5月度総数となっておりますので6月度総数に修正してください。それから収支予算書、こちらのほうは法令会計の方でしっかりと中身を見ていただきたいと思いますが、明細の方が付いておりません。明細の方記載するようにお願いします。以上3点のご意見とさせていただきます。

<橋本> 出向者会議に関してですが、今回、当日のメンバーのメーリングの案内はありましたか。

<金> 電話連絡で行わせていると、委員会からは聞いております。漏れていましたでしょうか。

<橋本> 電話でおそらく確認されていると思うのですが、念のために当日流していただいて、やはり行けるとなることもあるかと思うので、せっかくだったら使われたほうがさらにいいのではないかと感じましたので、意見です。

<林> 出向者会議の資料ですが、これからどんどんよくなってくると思うのですが、白黒のコピーだとみづらいところがあるので、写真にしたりしてわかりやすくしたり、あとたとえば前もって配信していただくとかができることより理解が深まるかなと思いますので、一度検討してください。

<金> 検討させていただきます。

<村上> 専務もいっていた明細の部分、最終的には法令会計審査の時までに整合性が取ればいいので、わかる範囲でしっかりと入れておいてください。あと議案上には開催委員会の実行本部に、宇都宮JCメンバーは全員出向しますと入れて、多分それを含めた審議をしないといけないのだと思うので盛り込んでおいたほうがいいと思います。それと背景目的のところ絡むのですが、委員長には是非、今年ならではのJCとしての運動は、宮まつりの企画に携わっている以上しっかりと企画の中に盛り込んで欲しいのです。委員長にお伝えください。

協-06 8月 第30回わんぱく相撲全国大会 開催計画並びに予算(案)について

協議資料に基づき、林常任より上程文の読み上げ。

<小瀧> 意見と対応の今までやってきたこの第6回正副までの開催日の年のところと、次の段、常任理事会の開催日の年のところ、あと正副の意見2の4名のところだけ小文字になっている。フォーマットと文字の精査をしてください。

<林> 精査いたします。

<羽石> 質問なのですが、本年度の工夫のところ、委員会メンバー以外にも練習立会いの声掛けをしていきますとありますが、具体的にいつどこでやるかの案内を兼ねて行うというかたちでよろしいですか。

<林> 練習のスケジュールに関しては、毎週土曜日に陽南道場で行っているのですが、具体的な案内というのは、大変申しわけございませんがメンバーの皆さんにはしておりませんでした。練習に参加していただく情報を発信できていなかったのを検討していきたいと思っております。

<村上> 羽石議長がいていた練習のところ、是非メーリングで流すなり周知をして欲しいと思っております。私も練習の応援に行きたいと思っておりますのでお願いします。あと意見と対応の書き方ですが、たとえば意見1ですが、対応1にここに答えが書いてあるので、議案のどこに反映させたかというところまで書いた方が議案上はいいのと、意見3に平仮名が多いので修正してください。それと全体的に精査しましたと書いてありますが、対応4の効果を精査したところ、ここでまた平仮名なのです。小瀧副理事長からも上程スケジュールの書き方の指摘がありましたが、法令会計審査と書いてありますがこれは法令審査会議です。総務委員会の議案には、法令会計審査会議と書いてありますよね。審議なのでその辺はしっかりと統一をしてください。総務委員会にわからなければ聞くなりしてください。

協-07 9月例会 第4回宇都宮ストリートダンス選手権 開催計画並びに予算(案)について

協議資料に基づき、林常任より上程文の読み上げ。

<中島(崇)> 全体的に誤字脱字をチェックしてください。続いて参加員数計画、こちらは6月度総数に修正してください。それから収支予算書、笑顔デザインプロジェクトの寄付金ですが、実際に事業は130万で収まる額になっているのですが、中身をみると129万位で収まっているのでこの寄付金は逆にいうと入る必要があるのかみたいなどころがあるので、話は一度揉んでもらった方がいいと思います。正常な仕方というか書き方を、法令会計と一度打ち合わせをしてください。それから賞品を差し上げると記載にあると思うのですが、副賞の協賛品の中身がどういったものなのかというところや、アンケートを持って抽選会を行いますというかたちになっており、抽選会の賞品プレゼントをします。なくなり次第終了ですと書いてありますが、どういったものになるのでしょうか、そういったところも細かくもう一度詰めてください。

<金> 前回の正副の意見と対応のところですが、6番に、保健所と消防に書類を提出するとありますが、その書類というのは何を提出するのですか。雛形等あるようでしたら添付してください。

<羽石> 細かいところでフードブースなのですが、利益を募金するというのがありましたので、その辺り実際こちらの議案を報告する際に、一度法令会計審議会と打ち合わせしていただき、各地で募金したことを証明するのかというところまでを詰めていただきたいと思います。

<廣田> 飲食ブースを設ける目的は何なのでしょう、教えてください。

<林> 飲食ブースの中身は宇都宮のソウルフーズなのですが、特に福島から沢山の子どもたちが来るということもあり、そういった部分で地域の沢山の食べ物を振舞いたいというところが一つあります。またこちらにも書いてありますが、大変暑い中での真夏の開催なので、是非飲み物を提供したい、そういったところの目的がございます。

<村上> ロードマップのところ、今年現状の把握。来年からは学校単位でやるとなっていますが、来年やるのであれば今年やればと思うのですが、まだ6月ですから声をかければと単純に思うのでもう一度検討してください。あとその現状を把握するのであれば、報告のときにしっかりとしたかたちで次年度に引き継げるような準備をし、絶対漏れのないようにしてください。こういった事業の運営というのは妥協しちゃいけないし、すごく細かいところまで

丁寧にやらないといけないのです。我々は運動体なので広がりやを常に出していかないといけないし、先のことも見据えながら運動をしていかないと運動にならないのです。そういう意味でしっかりとロードマップに繋がられるようなかたちにしてください。

協-08 11月例会 まちづくり事業開催計画並びに予算（案）について

協議資料に基づき、林常任より上程文の読み上げ。

<中島(崇)>今クール初上程です。まずフォーマットのなところからですが、参加員数計画は6月度総数ですので月が変わった際には必ずチェックしてください。それから、ポスターチラシは予算に入っていますので作るということでしょうか。

<林> はい。こちらは至急作成致します。

<中島(崇)>添付をしていただきますようお願いいたします。

<金> この議案の中でエコキャップの件とまちづくりフォーラムの件とブース出展の件が大きく3つに分かれていると思うのですが、その3つのどこを重視してこの目的を達成しようとしているのでしょうか。

<林> 目的としては市民が主役のまちづくりというものを認識していただいて、発信していただくというところにあります。そういった意味で、まずはまちづくりフォーラムを一番のメインの設えということで考えています。それに付随してエコキャップアートというものを考えておきまして、こちらもやはりそれを作っていく上で味わえる達成感や喜び、そういったものから宇都宮に対する想いというものによって変わっていただければということで考えています。

<金> まだ実施まで期間があるので、色々と検討されてはと思うのですが、そのまちづくりフォーラムを重視するのであれば、そのことを最大限に目的の達成に繋がられるようなことをまず考えるべきだと思います。エコキャップが悪い、ブース出展が悪いとかそういうのではなく、そのフォーラムをやるにあたり、本当にこの場所、この時間帯でいいのか、そういうことをまず検討いただきたいなと思います。意見でございます。



<橋本> 今回シンポジウムシナリオが終わったあとにまちづくりサードセッションというのがあるかと思うのですが、非常に斬新な手法で素晴らしいと思うのですが、多分はじめての設えになってくるかと思えますし、会場にいる人をステージに上げるところは色々とバタバタになる可能性があったり、本当に手をあげてくれる人がいるかいないかの問題も出てくるので、この辺の設えをしっかりと議案に組み込まれたほうがいいと思います。意見です。

<金> まちづくりフォーラムの設え、もちろん他の様々な事業と設えが違う部分が沢山あると思うのですが、割かし似たような講演があって、パネルディスカッションがあってってというイベント的なものは変な話、宇都宮の市内でも開催されている実績というのはどうなのかというのが知りたいのと、もし他の団体さんや行政などで、そういうことをやられているのであれば、JCらしさをそこでしっかりと打ち出さなくてはならないと思うので、その辺をどのようにお考えですか。

<林> 委員会の方でまちづくりに関するフォーラム等々探しまして、参加して色々な情報は収集しているということで報告は聞いておりましたが、すみませんが私の方でその内容について詳しく把握しておりませんでしたので、次回までにそういった資料の方を用意しまして、しっかりと示せるよう検討して参りたいと思います。

<廣田> 金常任と似ている意見になってしまうのですが、大きくわかれている3つの内容それぞれに目的があって委員会を出してきたのだと思うのですが、それがどうゆう風にリンクして、最終的な目的を達成しようとしているのかがわかりにくいので、委員会で検討してください。

<福田(治)> 告知動員計画のところ、宇都宮市の小学校から700名とありますが、先程のダンス、わんぱく相撲でさえも出せてないところを、本当にこうできるのか、どういう根拠、何を持って700名にされているのかということと、曜日だとかこの辺の祝日は結構行事もありますけど、その辺はお調べになったのでしょうか。それと協力に国際交流協会、中心市街活性化委員会、まちづくり市民工房、自治会連合会という風に入れておりますが、これがそれぞれどういったことをされているか把握されていますか。それぞれのこのパネルに入れている協力業者様がどういった活動をされているのかを把握しているのでしょうか。それとこのパネリストに村上理事長が入っていないのはな

ぜか。三点質問です。

<林> まず動員計画に関して市内の小学校関係者700名というご質問ですが、こちらエコキャップアートのパネルの枚数を90枚作成したいと考えております。そのうちの6、70枚程度を、是非小学校にお願いできないかと考えておりました。仮に70枚お願いできたとすれば、そちらの小学校で作っていただいた関係者の方、10名程度は来ていただきたいと。そういうのを合わせていったところが700名という数字の根拠となっております。少し弱い部分あるかもしれませんので検討したいと思います。続きまして行事に関してですが、非常に10月、11月行事が多くなっているところであると思えます。オリオンスクエアでも招致講演など、去年も殆ど埋まっている状態がありました。大変申しわけございませんが、当日の行事で何をやっているかまで詳しく調査できておりませんでしたので、次回までに調べて参ります。最後の協力業者の活動内容というところですが、まず宇都宮まちづくり市民工房さん、こちらはまちびあを管理、運営している団体でございます。そういったところでまちびあをとおして、まちづくりをする団体の支援をしたり、こちらの市民工房さん自身もそういったまちづくりのボランティア活動をやっています。そういったところを紹介していただければと考えております。

<福田(治)> 中心商店街は。

<林> その他に関しては把握しておりませんでしたので、もう一度しっかりと私自身も勉強して参りたいと思えます。大変申しわけございませんでした。

<福田(治)> それと村上理事長が入っていないのはなぜですか。

<林> こちらに関しましても、やはりJCの代表として意見を述べていただいた方がより市民の方にJCの活動というものを発信できるかと思えますので、パネリスト、それ以外の団体も含めましてもう一度しっかりと検討して参ります。

<福田(治)> 国際交流協会は若干ちょっと適さない。僕もJCでお願いに回ったことがあるのでどうかなと、自治会連合会については確かに地域によってすごい一生懸命やっている方たちは沢山いて、今の会長が誰か知っている方は沢山いるでしょうし、村上理事長もいろんなどころでお会いしていると思うのでいいと思うのですが、少しバランスの問題があります。オリオン通りをあえて二

つ入れてますが、ものすごく団結があるわけではないというのをまず頭に入れてもらいたいのと、中心市街活性化委員会のところは馬場の人たちで、沢山イベントをやっているがそれは一部の人であって、あの辺の人が本当にまちづくりをされているかという点意外とそうではないという見方もありますから、中心市街商店街活性化委員会だったら、僕もいるみやヒルズというところもあり、どちらが活発かという点、多分みやヒルズの方が活発だったりするので、そうゆうところも頭に入れてみてはいいのではと思います。ただこの辺は僕の立場からいわせてもらおうと村上理事長を入れてないのはよくわからないし、それでいてこの組み合わせの中から2名というのはみえない部分が強くなる気がするので、多分どんどん日が経つごとに皆様からいわれると思うので、よく考えてください。今日、わかる時点で皆さん気付くところは全てというべきです。これだけの事業ですから。

<小瀧> 正副の意見が結構端折れているのでそれを精査していただきたいのと、エコキャップアートを実現するには沢山のエコキャップが必要になり、みんなでエコキャップを集めて作るみたいなことっていますが、実際産廃屋さんにエコキャップをタダでもらい、それでエコキャップアートを作り、最後にポリオワクチンにかえるのではないのでしょうか。宇都宮JICが集めたやつでポリオワクチンにしようというのは何か偽善ぽくて僕はすごく嫌なのです。タダで貰ってきてあたくも自分らが集めたみたいな、集め方は考えた方がいいのではと正副でいったのですが端折られています。どこにもそのエコキャップをタダで産廃屋さんから貰ってきますと参考資料には書いていません。もっとやり方を考えて欲しいと思います。

<金> ブースを出す意味があるのかなというところが正直なところで。基調講演、まちづくりフォーラムを前面に出すのであれば、そこで最大限の効果を狙うようなことをやった方がいいのではと思うのです。ブース出展がおまけみたいな感じに非常に感じるのです。もう一点が、エコキャップすらもやる必要がないのではと感じてしまっているのです。逆にエコキャップをやりたいのであれば、エコキャップに特化したものを作って目的を達成すればいい。その辺何か3つの手法が混在していて、どれも中途半端に感じる議案なので、そこをどのようにお考えなのかが決まらないと、この先中途半端な事業になり兼ねないと危惧しています。

<羽石> フォーラムについて教えていただきたいのですが、対象をみると一般市民となっておりますが、具体的にどういった市民なのでしょう。先程直前が話

されましたが、多くは小学校の児童、保護者、教員になるのですが、まちづくりだともっと別な団体というか、具体的に一般市民のこういった層に対象者をあてて考えているのでしょうか。

<林> 対象者ですが、特定のところに絞るのではなく、本当に幅広く宇都宮のまちづくりに活動している団体、ただ市民の方は知らない方が非常に多いと思うので、そういったところの幅広い層に知っていただきたいと思います。もちろんそういった活動をしている団体の方には来ていただけることにはなっておりますが、本当に幅広い市民の方に発信したいと考えております。小学生に関しましてはエコキャップアートをお願いするというのがありますので、講演会前の来場を期待しているという部分もありまして、数字としては非常に大きい数字になっておりますが、全体のバランスとしては、午後のメインフォーラム、こちらで300名から400名程度の集客を見込んでおります。

<羽石> メインフォーラムをメインと考えると、逆にオリオンスクエアでいろんな人が集まれるというメリットあるかと思うのです。逆にいえばあったらすぐそっぽを向いてしまったり、あとは注意が他のところになってしまう要因が考えられるのですが、この辺りでやる理由はどこにあるのでしょうか。

<林> 屋外を一番主眼に置いたわけではないのですが、やはり中心市街地で一般の方の沢山の目に触れられる場所で、会場としては開放的な場所を使いたいといったところと、オリオンスクエアであれば屋根もあり、雨の際も設営を十分できるという風に考えてオリオンスクエアを設定しています。

<澤畑> 内容がまちづくりとか地域がというこの内容は、どうしても難しいというか、宇都宮市がやっているものに寄りやすいのです。ブランド戦略は僕もよくこだわっているところなのですが、宇都宮市でやっているものとJCでやっているものの違い、JCだからこそできること、そこをを考えてやっているのかなど、そこがみえない。それなりによさそうなことばかりを並べてやっているように見える。第一に福田直前がいったように、村上理事長がパネリストにいない時点で、JCらしさを考えているのかなと感じてしまいます。何が宇都宮JCらしさなのか確かに難しいですが、たとえば宇都宮の中心市街地でやるというのはすごくいいことなのですが、今まで宇都宮市じゃなかった街が、合併されるとそこは宇都宮市ですよ、そうゆうところであえてやり、貴方たちも宇都宮市民ですよ、そういった街でムーブメントを興して、こんなに離れているけど合併されても私たち一緒ですよ、そうするとJ

Cらしさがあるのかなと思うのですが、その辺ちゃんと考えながらやっているのでしょうか。なんとなく体裁のいいやつばかりを並べ、何の目的も考えずにとりあえずやりたいことを出したレベルって感じにみえてしまうので、林常任はわかっているのでしょうか。質問です。

<林> J Cらしさという部分に関して、3つ細かい柱が建っている状況になっておりまして、一番大きな軸というのがぼやけてしまっているのかなと、そこがJ Cらしさを感じさせることができない原因という風を感じております。今日その辺のご意見もいただいていますので、まずはその軸となる部分をもう一度しっかり相談し、議案を作り上げていきたいと思えます。

<橋本> 会場図をみたのですが、今回客席を300席というかたちにはしていると思うのですが、一般市民1000人という計画をされていると思うのです。オリオンスクエアの平面図をみて考えるとブースの方は当然人もいるし、動線も必要になってくると思います。イメージして欲しいのですが、そうすると300席に座り切れなかった人たちが本当にダニエルカールさんの話やその辺のところに興味を持ってくれるのかなと感じました。意見です。

<中島(崇)> 皆さんの意見を総括したところで、もう一回先程の軸の話もありましたが、もう一回議案をしっかりと見直して作りなおしていくことが、今日の常任での最終的な落としどころだと思いますので、ここで協議としては切らせていただきたいと思えます。

<村上> 細かいところの話はしませんが、多分今年の宇都宮J Cの運動の集大成的な位置づけになるものだと思うのです。質問なのですが、市民主導型社会は所信の中で定義づけているのですが、市民主導型社会って何ですか。

<林> 市民が主役となって自ら考えて行動する、考えてまちづくりをするそういった社会です。

<村上> 市民自らが地域をよくするという当事者意識を持って率先して行動する社会を定義づけている。僕作ったときに、所信の中に言葉を全部定義づけしながら書いているのです。今年の運動はどこまでいっても当事者意識の情勢をめざさなくてはいけないと僕は思っているのです。もう少し読んで深掘りして欲しいと思うのですが、やはり市民の琴線にふれることで地域に対する意識を変えて欲しいというのが運動の軸としてあります。今作っている設えをみ

ると内容的にはいいのです。皆様から意見をもらったとおりにやろうと、一生懸命考えてどうすればいいのか、その努力がすごくみえる議案なのです。ただすごく押しつけがましい感じにみえる。たとえばシンポジウムとか、フォーラムとか、多分やったら内容はいいことをやるのだと思うのですが、すごくこっちの押しつけ感がある。多分これは市民の琴線にふれないのではないかと思うのです。その前に人が集まらない気がする。難しいと思うのですが、今日もいろんな意見いただいたと思うので、あとは委員会で話し合い、どの手段がベストなのかを突き詰めて欲しいと思います。

#### 協-09 その他

なし

#### 14. 報告事項

##### 報-01 対外出向者について

<中島(崇)>ご一読ください。

##### 報-02 年間公式スケジュールについて

<中島(崇)>ご一読ください。

##### 報-03 2014年度カレンダーについて

<中島(崇)>ご一読ください。

##### 報-04 会費納入状況について

<廣田> 会費納入状況ですが、アジェンダアップ後に竹澤君に後期分を入金していただきました。尚、特別会員の数が予算当時からだいぶかけ離れていますので、

末の総会で中間が出て、そちらみながら今後の対応を協議いただければと思います。

#### 報-05 特別会員入金状況について

<中島(崇)>ご一読ください。

#### 報-06 推薦委員会設置について

<橋本> 2015年度理事長の当選が確定致しましたのでご報告いたします。推薦委員会により、立候補推薦を持ち2015年度理事長当選人が、須山裕史君に確定したことをご報告します。

<中島(崇)>本年度副理事長の須山裕史君が、次年度2015年度理事長として当選されましたので拍手をお願いします。理事会にてご挨拶を頂戴しようかと思っていたのですが、一言よろしくをお願いします。

<須山> ご紹介をいただきました須山裕史でございます。6月の4日に選挙管理委員会の皆さんの立会いのもと、2015年度の第49代の理事長の立候補の書類を提出させていただきました。本年2014年度の村上理事長の運動の中ではございますが、与えられた役職をしっかりと全うして、その中で2015年度の準備を進めていきたいと思っております。2015年、様々なファンクション、色々な役割があるかと思えます。ここにお座りの常任理事構成メンバーの皆様の今後のご協力をいただきながら進めていかなければ、大業は成し遂げられないという考えでおります。引き続きのご支援、ご協力のほど、どうぞ宜しくお願い致します。簡単ではございますが、この場をお借りしまして、ご挨拶とさせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

#### 報-07 次回開催について

<中島(崇)>7月9日(水)19:00～ コンセーレ JCルームにて開催。

## 15. 監事講評

<澤畑>

総務委員会の皆様、毎度のことながらご設営ありがとうございます。もしかしたら常任理事の皆様がそうじゃないよと怒るかもしれないですけども、もしそうでなければ謝ります。私の本当の今日の感想ですけども、これは気候のせいなのか、時期が梅雨だからなのか、すごくどんよりした感じがしていました。これは私が感じたことですが、要は自分たちの議案がとおればいいやという感じがすごく見受けられる。他人ごとというのがすごく出ていたように感じました。福田直前と山本顧問がいらっしゃってからは、さすがにピリッとした感じで意見が出た感じはするのですが、最初前半のあたりはなんとなくそんな気がしました。すごく他人ごとであるのじゃないかなというところが見受けられました。学校とかですと、よくこの時期とか中弛みといった言葉を使ったりもするのですが、JCに関しては中弛みは許されない。もちろん疲れているんな事業と重なってきたり、疲れてきている時期なのはもちろんわかりますが、絶対中弛みというのはあってはいけません。この一年間をもって、それをもって村上年度というのが終わるので、決してその途中で中弛みをしていくようなことがないようにして欲しい。議案協議案件をみてもわかるとおり、本当に莫大な予算を使っていく事業と、そして巻き込む市民の数も多い事業もできていますので、決して中弛みせずにはやって欲しいと思います。この執行部がじめっと、だら一とした感じでやっていると、必ずその下のメンバーたちに移っていきますので、そこをもう一回無理してでも私たちは気を引き締めて、もう一回やり直すというか、今6月で中間地点なので、かっこいい折り返しを迎え、かっこよく最後半年間突っ走って欲しいなと思います。

細かいことに関しては特段ないのですが、最後の議案に関して少し質問をさせていたいただきましたけれども、まだまだ本当に詰めるところが沢山あり、意見をいったらきりがないくらいある議案だと私は思います。是非とも理事会までにはもっともっと詰めて、持ってきていただきたいなと思っております。

## 16. 閉会宣言

<中島(崇)>

公益社団法人宇都宮青年会議所  
2014年度 第6回 常任理事会議事録

議 長：( 専務理事 ) 中島 崇



議事録作成人：総務委員会